

C—6 東海地方における住生活の実態

—1. 寝室に関する研究—

市邨学園短大 ○泉谷 秀子
奥山 静

1. 現代において、比較的家庭生活も安定してきた今日、東海地方においてどのような住生活が行なわれているかを考え、初回は住宅内において、休養、睡眠の大切な役割りを果たしている寝室の問題および就寝の実態を知るため、地域別、職業別、家族別に検討を行なった。

2. 愛知県（名古屋市，尾張，三河）と岐阜県を中心とした中流家庭を無作為に抽出し、アンケート記入方式により、記入を依頼した。調査期間は昭和41年5月から7月までとし、アンケート用紙の配布は、820部で回収率は77.9%である。

3. 地域別にみると、名古屋市内においては、他のそれと比較して、居室数と寝室数、および家族数と寝室数とは順相関を示しており、就寝状態はやや良好である。

職業別にみると、特に農家においては、かならずしもそれらの関係はみられず、居室数が多いにもかかわらず、寝室数が少なく、集中就寝が多いなどの結果が得られた。